平成26年度当初予算で実施が決定した事業をご紹介します！

「にぎわい」と「やすらぎ」のあるまちづくりのために

美術の森緑地の整備　【1億3487万円】

- 練馬区立美術館（貫井1-36-16）入口に隣接する緑地を野外展示の場として天然芝にし、彫刻作品を中心に配置する計画です
- 区の観光スポットになるような整備を実施し、中村橋駅周辺の商店街や地域の活性化につなげます

練馬産業振興センターの開設　【1億7280万円】

- 練馬駅北口に4月に開設する「Coconeri（ココネリ）」内に区内産業振興の中核的拠点となる練馬産業振興センターを設置し、ビジネスサポートセンターを運営します
- 事業者からの各種相談に対し、専門の相談員が助言や支援を行い、中小企業の活性化を図ります

すべての子どもたちの健やかな毎日のために

子どもたちの居場所づくり推進　【1億8673万円】

- 夏休みの子どもたちの安全･安心なくらしを守るため学校応援団ひろば室を活用した「夏休み居場所づくり」のモデル事業を小学校6校に拡大します
- 事業を検証し、新たな放課後児童対策の検討を進めます

こどもほっとステーションの開設　【2億1631万円】

- 練馬駅北口「Coconeri（ココネリ）」内に、練馬子ども家庭支援センター練馬駅北分室を開設、子どもと家庭の総合相談や乳幼児一時預かりを実施します
- 「こどもほっとステーション」は、小児科診療所と病児･病後児保育室併設の認証保育所からなる、新しい子育て支援施設です

自民党

練馬区議会議員 第五十九代議長

関口（せきぐち）かずお

常任委員会	文教児童青少年委員会　委員長
特別委員会	総合・災害対策等特別委員会 委員
各種委員会	民生委員推薦会
	美術館運営協議会

ご相談は…　関口かずお 事務所
〒 176-0021 練馬区貫井 3-53-8
Tel / Fax：3998-1752　HP：http://www.k-sekiguchi.jp/

親と子の時間

とある回転寿司店で、ひとり食事をしていると、「金目鯛お願いします」という子どもの声が聞こえてきた。声の主は、向かいの席に母とふたり座っている、3，4歳の男の子だ。「はい、金目鯛。さび抜きだよ」「いただきます」…回転寿司という形態ではあるが、目の前にショーケースがあるカウンターに座り、職人と会話をしながら寿司を食べるというスタイルは、まさに「寿司屋」のものである。子どもが幼いころから、こうして人と会話をしながら食べることを経験させるのはよいことだな、とおもいながら、ふたりを見ていた。

時々、母と子は顔を見合わせながら、何やら話をしている。母も子もとても穏やかな顔をしていて、その席は、とてもあたたかく、やわらかい空気に満ちている。

ふいに、自分の母をおもった。母は、人が訪ねてくれば家に上げ、帰りには何かしら持たせて手ぶらで帰らせることがなく、相談事をされれば、決して楽ではない自分ながら、いくばくかの都合をつけ、それは晩年まで変わらなかったようだ。実は私はそれを母の口から直接聞いていない。母の葬儀に家族も知らない人が幾人も参列し、母に世話になった、とお礼を言っていくので、初めて知ったというわけだ。後に議員になった時、母が母の人柄で培ってくれた人とのつながりが、私が政治の世界に出ることを後押ししてくれたのだとおもった。そしてそんな母に育てられたからこそ、今の自分の、人としての、そして政治家としての「やり方」があるのだとおもう。

母と子、父と子、親子が時間を共有できる期間は、実は、とても短い。その中で、あの寿司店の母と子のような、あたたかく、心に残る時間を、どれくらい持つことができるか。それが、子の人生の豊かさにつながると、おもう。

親のすることを間近で見たり、共に行事に参加したり、食事をしたり…そんな経験をつみながら、子は少しずつ大人になり、いつか必ず、親から離れ、自分を持つときがくる。それが子育て、というものである。

これまで多くの場合、少子化対策やそれに伴う子育て支援策は、大人の都合に合わせて作られてきたように、おもう。家庭や地域がどのようであることが、子どもにとって、本当にしあわせで、心地よいことなのか。それをもう一度考える必要がありはしないか。

親と子が、あの寿司店のふたりのように、ゆったりと、共に過ごせる時間を、無理なく、より多く持つことができるようにする施策こそ、今本当に求められている、子どものための、子どもの立場に立った「子育て支援」ではないか、とおもっている。